

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	藤原 海考
------	-------

主な担当科目	声楽
--------	----

2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	演奏活動等の研究活動を通じ声楽やオペラの指導法の向上を図る。更に、学生の技術向上のため様々な教育システム及び講座等を導入し、学生に舞台経験を積ませる企画を模索する。
----------------------------	--

2025年の教育に関 する自己評価	演奏活動等の研究活動を通じ声楽やオペラの指導法の向上をおおむね図ることができた。また、学生の技術向上のため様々な公開講座などを通じて学生に舞台経験を積ませる企画を模索することができた。
----------------------	--

2025年のFD活動 に関する自己評価	主に声楽部会及び声とことばコースでFD活動を行い、特に声とことばコース授業での活動はおおむね積極的に行ったと言える。
------------------------	--

授業改善のために 取り入れた研修内容	声楽部会及び大学院オペラの授業、そして声とことばコースの授業では頻繁に教員相互で打ち合わせを行い、一定の成果を挙げたと思われる。
-----------------------	--

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1198 教員名:藤原 海考

1)アンケート結果に対する所見

レッスンに関しては、1年間マンツーマンで担当した学生の回答であったため、概ね予想できた評価結果であった。全体的にレッスンに満足している学生が多く、学生とのコミュニケーションがある程度図れていたことの表れだと思う。

ヴォーカルエクспレッションメソッドの授業に関してもほぼ同様である。設問文では類似した内容があるにも関わらず評価結果が少しずつ違うことが分かり、設問の微妙なニュアンスの違いを学生が感じ取って回答したことが窺える。また、少し思う、という回答があるが、なぜ少しだったか、について興味がある。少し思うことについて、その理由を記述してもらえるシステムがあれば、教員側も改善につなげるのではないかと考える。

2)要件への対応・改善方策

少しでも何か改善したいと思い、普段から学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めている自覚はあるが、それでも不十分なケースも考えられる。学生の様子、声など細かく観察し、教育効果の高い授業を行っていきたい。

3)今後の課題

私自身の声楽の研究を高めることが学生に還元できる唯一の手段であると信じている。今後もより多くの研究活動に力を注いで行き学生の上達度が少しでも向上するよう努力したい。また学生の主体性を高める意味で、毎回レッスンの進め方について学生の希望を聞くことにしている。今後も学生との信頼関係を重視し、学生からのシグナルをすばやく察知できるように努めたい。

以上